

イヌ肛門嚢アポクリン腺癌の上皮小体関連蛋白質（PTH-rP）の発現と 高カルシウム血症および組織型との関連

○長峯栄路、二瓶和美、大川内充輝、小野澤花純、内田和幸（サンリツセルコバ検査センター、東大 獣医病理）

【背景】肛門嚢アポクリン腺癌（CA）は、高齢の雌イヌに好発し、強い局所浸潤性と腰下リンパ節への転移を伴う悪性度の高い腫瘍である。また CA の約 30% で高カルシウム血症が認められ、腫瘍細胞による上皮小体関連蛋白質（PTH-rP）の産生が関与するとされているが、免疫組織化学的に腫瘍細胞における PTH-rP の発現と高カルシウム血症との有意な関連性を示唆する報告は少ない。そこで、本研究ではイヌの CA における PTH-rP の発現について、病理組織学および免疫組織化学的に検索した。【材料と方法】臨床的に高カルシウム血症を伴うイヌの CA 5 例および伴わない CA 5 例、計 10 例を用い、HE 染色により形態学的特徴を把握した。また抗 PTH-rP 抗体を用いた免疫染色により、PTH-rP の発現と高カルシウム血症の有無および腫瘍細胞の形態学的特徴との関連性について検索した。【結果】10 症例は優位な細胞形態および増殖様式から、充実型（7 例）、ロゼット型（4 例）、管状型（4 例）の 3 つの組織型に分類され、複数の組織型が混在する症例も多く認められた。PTH-rP に陽性を示した症例は、高カルシウム血症を伴う CA で 80%（4/5）、高カルシウム血症を伴わない CA で 20%（1/5）であり、高カルシウム血症を伴う CA が高率に PTH-rP に陽性を示した。PTH-rP に陽性を示す腫瘍細胞の細胞形態は様々で、組織型に関わりなく PTH-rP の発現が認められた。【考察】高カルシウム血症を伴う CA では PTH-rP の発現が多く認められ、CA の腫瘍細胞による PTH-rP の産生が高カルシウム血症に深く関わっていることが免疫組織化学的に示された。また CA の組織型と PTH-rP の発現に有意な関係がみられなかったことから、腫瘍細胞の形態学的特徴は PTH-rP の産生に相関せず、組織型と高カルシウム血症の間にも有意な関連性はないと思われた。